

企業名： 東海理化電機製作所

レポート名： 東海理化レポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

「豊かな社会づくりに貢献」「個性とチャレンジ精神を尊重」「自然・地域と共生」をキーワードとした経営理念をもち、人が手掛けない、しかし社会に必要なことに率先して取り組む姿勢は創業以来健在である。代表取締役社長の二之夕裕美氏が懸念する点として、自発的に動く力があまりないことが挙げられるが、医療従事者の方々へのフェイスシールド寄贈などを通じて着実に改善方向へと進んでいる。年休カットゼロの促進（2020年時達成率96.9%）、残業時間の短縮（540H超過数、2019年度より0人達成）、仕事と育児の両立、セカンドキャリア応援など、働きやすい環境づくりをしていると評価できる。2050年までにCO2排出ゼロを掲げ、特に生産工程で発生するCO2のみでなく調達から物流・使用過程に至るまでの工程での削減をめざしており、SDGs経営を意識した持続可能な社会構成の一員である。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

日本発の自動車産業の一翼を担うトヨタ自動車株式会社（以下、トヨタ自動車と表す）と創業以来続く強い産業的つながりをもっていることが、この会社の競争優位性であるといえる。自動車産業は、日本に限らず世界規模で歴史のあるもので、新たな会社・業態の参入が困難な分野である。そのため安定した利益をあげ続けるためには、寡占状態のマーケットを支配する「大手」の会社（日本ではトヨタ自動車・本田技研工業株式会社・日産自動車株式会社など）と継続的なつながりを持ち続けることが肝要である。この観点から言って、古くからトヨタ自動車と信頼関係を築き上げていることは市場価値的に大いに意味を持つといえるだろう。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

スマートキーや各種スイッチなど、自動車部品の開発を主として行っている会社のため、業績が自動車業界の売上と密接に関わっている。先にも述べたが、重役のほとんどがトヨタ自動車での勤続経験をもち、また総株の30%超をトヨタ自動車が保有していることから、特にトヨタ自動車とのつながりが強いといえる。トヨタ自動車はコロナ過の売上低迷期を脱し再び成績を伸ばしているため、東海理化も今後十数年の黒字化が見込まれる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

この会社で、人の役に立つとはどういうことか学ぶことができると感じた。やりたいこと

をただでは社会経済がうまく循環することはないため、人がやりたがらないことを率先してやる役回りも必要である。それを会社の経営理念に掲げているため、自分の社会における価値を高めてくれる場を提供してくれるはずだ。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

東海理化の強みとして、創業者精神、技術開発を支えるコアテクノロジー、トップレベルのモノづくりを支える生産技術・製造が挙げられているが、他社との比較があまりなくどの程度突出しているつよみなのか理解することができなかった。そのため安易にこれらを競争優位性と考えることはできなかった。